

---

# USELESS

鹿谷カモ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

USELESS

### 【Nコード】

N3441Z

### 【作者名】

鹿谷力モ

### 【あらすじ】

死とは全ての命に平等に、そして唐突に訪れるモノだ。

大学へと向かう最中、車に跳ねられて死んだ俺は、どうやら「神」によって転生させられるらしい。

転生先は『NEEDLESS』の世界。

数多の能力者が跋扈する世界で、俺は無事に過ごすことが出来るのだろうか。

## プロローグ（前書き）

もう一作の方が執筆中に消えまくったからむしゃくしゃしてやった。  
反省も後悔もしている。

勢いで投稿したけど、続き書けるか不明……。

## プロローグ

暗い、暗い空間の中。

見渡す限り、どこまでも漆黒が埋め尽くすセカイに漂っている感覚。どこまでも深い闇に沈んでいく感覚。

この空間の中では自分の身体すら見えようはずも無く、五感は欠片も役には立たない。

時間の感覚も狂わされる中、何とか思い出せるのは死の瞬間くらいのものか。

そう、あれは所属サークルへ顔を出すために大学へと向かう途中の事だった。

俺は照りつける夏の日差しに僅かに目を細めながらも、周りの景色に目を向けながら歩いていった。

代わり映えのしない景色の中、僅ばかりの違いを見つけるのが楽しかったから……。

それは一瞬の出来事だった。

不意の突風に気を取られ、俺は余所見をしたまま交差点を渡ってしまった。

誰が悪いと言えば、余所見をしていた俺か、それとも一時停止を無視した乗用車の運転手が。

……いや、今となってはそれも考えるだけ無駄なことか。衝撃の後、身体の中から力が抜けていく感覚。

夏だというのに寒さすら覚える感覚。

混乱し、回らない頭でも、死というモノを嫌でも理解させられた。

記憶の海から意識を引き戻す。

回想している内に、黒一色だったセカイには僅かばかりの変化が訪れていた。

周囲にはまるで宇宙の星々の様に儂く煌めく光達と、彼方には真っ白で大きな光。まるで太陽の様だと思ってしまうた。

そして、そこに向かって光の道が幾筋か繋がっているのが見える。

自分もあの光に取り込まれるのだろうか。徐々に幾筋もの道、その一本に近付いて行くのがわかる。

そこでようやく気がついた。

星だと思っていたものは自分と同じモノだと。

それはヒトだった。

それは鳥だった。

それは動物、昆虫、魚、e t c . ありとあらゆる生き物たちの形をした光だ。

それらは光の道に近づくにつれ形を崩し、取り込まれ、大きな光に溶け込んでゆく。

いずれ光の中から新たな生命として旅立つのだろう。

ああ、理解した。コレが、輪廻という……。

「……もう良いかのう？」

幼さを感じさせる高い声で現実に引き戻される。

周囲は一面が真っ白い空間で、そこにポツンと金髪美少女が立っている。

そう、美少女だ。

服装は古代ギリシャの様に、白い布を巻いている。

死んだと思っただら目の前に金髪美少女。どういう状況だかさっぱりだ。

「儂か？ 儂は又シらの言う神という存在かのう。……所で、さっきまでの長々とした思考は何だったのじゃ？」

「んー……、俺的死生観みたいな？ この空間でぶち壊されたけど。てか、神様が美幼女なんて何て俺得」

「バラモン教かのう？ そも、神とは人の集合意識が生んだ曖昧な存在。かつ、全ての魂の集合体じゃ。この形を取っておるのは他でもない、お又シの深層意識で神イコール美幼女という式が成り立っておるからじゃろう」

なる程、確かに昔は天岩戸に出てくるアメノウズメが幼女だったらと考えたこともゲフンゲフン。

「変態じゃのう。まあ良い、お又シが此処に来た理由を話そう」

「変態ではない、紳士である。……理由？」

思わずキリッとした顔で宣言してしまったぜ。

しかし、理由とは何だ？ 普通に転生じゃないのか？

「ふむ、転生であることには違いない。じゃがコレは所謂『チート転生』というものじゃな」

ほうほう……、何故にチートが付くのかサッパリだぜ。

それより、今気付いたんだがこの幼女神、普通に人の思考読んでねえ？

「儂は魂の集合体と言ったじゃろう。それにはこの場に居るお又シ

の魂、思念も含まれておる。チート転生の理由は、丁度集合意識の一部がそちらに寄った時に死んだのがお又シだからじゃのう」

「なる程、あの時車を避けてたらチート転生にはならなかった可能性もあると?」

「うむ、お又シが美少女ウォッチング（笑）などしていなければ、もしくは一サークル（漫研）に顔を出そうとしていなければ普通の生物への転生だったやもしれぬな」

流石は神。死因までバレてーら。

だって突風でスカートがゲフンゲフン。

「それはさて置き、チート転生ってことは、テンプレのごとく漫画やアニメの世界って事になるのか?」

「うむ、そうじゃな。お又シの行く世界は……、ネギま! やら恋姫、IS、リリカルなのは等はテンプレ過ぎるしのう。良し、『ワールドエンブリオ』の世界……」

「却下!」

「何でじゃ?」

何でもなにも、携帯持つてるだけで死にかねんだらうが!  
仮に刃旗核持ってたとしてもタカオや棺殯カモガリに殺されるわ!  
……有栖川やクララには若干心惹かれるが。

「ならば『ヘルシング』の世界で……」

「少佐の大隊に虐殺されるんですね」

吸血鬼になったら神父様に銃剣刺されたり？

出てくる女性キャラなんてインテグラ、婦警、狂戦士、魔弾の射手、もみじおろしくらいか？

というか、何故死亡フラグ満載な漫画ばかり選びやがる。

いくらチート能力を貰えても生きていける自信が無いっての。

「我が儘じゃのう。なら、この一から百までのカードの中から選ぶが良い。ちゃんとほのぼの系も入っておるから安心せい」

そう言っって幼女神が出したのは一から百まで番号の書かれた白いカード。

どれくらいほのぼの系が入っているのかわからないが、選ばねばならぬのだろう。

何番を選ぶべきだろうか？

キリの良い番号には地雷が仕込まれていそうだが、裏をかいてそっちにほのぼの系があるという可能性も無きにしもあらず。

……ふむ、考えても分からん。

ならば運次第なんだろうが、尚更引ける気がしねえ。

そもそも俺の運の悪さは友人達にも認められていた程だからな。

初詣でおみくじを引こうものなら高確率で凶を引き当ててたし。

というか、大吉より凶を引いた回数の方が多いってのはどうなんだ。カードゲームをやれば、これまた高確率で手札事故が起こった。友達が俺のデッキを使ったら普通に回るのに。

デッキ構築ミスだとかプレイングミスだとかそんなチャチなものじゃねえ。もつと恐ろしいもの……。

「早ようせんか」



……長々と思考の海に沈んでたようだ。  
ええい、儘よ！

「南無三！」

『七十七：NEEDLESS』

ええー……。  
ニードレスってアレだよな？ 学園都市……じゃなくて、二千発のミサイルを白騎士が……でもなくて、新型爆弾撃ち込まれた跡地での超能力バトル。

ええー……………。

無いわ、そりゃ無いわ。

シメジのニードレス狩りからどうやって逃げるか。いや、シティに居れば能力も現れないだろうし、その心配も無いのか？

「ふむ、NEEDLESSか。ならば能力を決めようかの」

「……………ですよねー」

どうやらのんびり過ごさせてくれるつもりは無いらしい。  
そういえば、七十六と七十八は何だったんだ？

「む？ 七十六は『咲・Saki・』じゃな」

「チックシヨオオツッ！！」

ほのぼの系だ。ほのぼの麻雀漫画だ。  
女の子達とほのぼのと麻雀打ち合えたのか……！

「七十八は……、『大魔法峠』じゃな」

コツチもほのぼの……、ほのぼの？

いや、大魔法峠はほのぼの系じゃないよな。

ぶにえとかどす黒いし、魔法少女モノかと思えばサブミッション肉体言語使いだし。

「ちなみに、七は『むこうぶち』じゃ」

まさかの殺伐系。

傀カイに「御無礼」されて首括るんですね。分かります。

符計算、点棒計算すら怪しい俺じゃあ勝てる気しねえよ。

「まあ、他の事などどうでも良いじゃる。今はニードレスの世界に合う能力を決めねばのう」

ニードレスの世界に合う能力って言われてもなあ。俺ニードレス0と一巻から六巻までしか持ってないんだが。

アニメもやってたみたいだけど、当然見てなかったしな。

アレだろ？ 要は某学園都市みたいな超能力だろ？

ふむ、何にすべきか。

テンプレチート能力なら無限の剣製とか王の財宝とかなんだろうがね。

無限の剣製の呪文とか覚えて無いけど。

“身体は剣でガラスのハート”だっけ？ 何という豆腐メンタル。ブロークン・ファンタズムの前にブロークン・ハートしそうだな。

「無限の剣製や王の財宝ならば可能じゃぞ？」

「え、マジで出来るの？」

「うむ、無限の剣製なら『剣を作る能力』、王の財宝ならば『特定の空間と繋げる能力』といったところか。もつとも、作れる剣は自分で認識した物のみじゃし、財宝も自分で集めねばならぬがのう」

「つ、使えねえ……。」

いきなり宝具投影とか宝具の原典取り出したりして『俺TUEE EEE!!』って出来ないの!？」

「当然じゃ。そもそも無限の剣製は『目視した刀剣を結界に登録し複製、貯蔵する』魔術じゃし、王の財宝は『持ち主の蔵へと空間を繋げる』モノじゃ。おヌシは宝具を見た事も手に入れた事も無いじゃろ?」

現実とは斯くも厳しいものなのか……。

無限の剣製やら王の財宝、幻想殺し辺りは『転生したら欲しい厨二能力』トップ三じゃないの？」

もうテンプレやらチートなんか知らん。欲望に忠実に行くしかない。

「決められぬなら儂が決めるぞ? ふむ、この際『ZERO』でどう……。」

「透視能力で頼む」

「いや、チート転生じゃと……。」

「透視能力で頼む」

「いや、じゃから……」

「透視能力で頼む」

「はあ……、分かった。透視系能力を基本に、チート能力者になれる様に運命を弄っておこう。どういった能力が現れるかは転生後に自分で確認するがよい」

イヤッホウ！ これで美少女のパンツ覗け……ゲフンゲフン。

これでシメジのニードレス狩りやテストメントから逃げられる可能性が大きくなったぜ。

透視すればテストメントを回避しながらの移動も出来るしな。

「では行くがよい」

む、この流れは……！

「とっつっ！」

突如足下に空いた穴をジャンプで回避。

穴の前に着地。

「何故避ける！」

やはりな、テンプレ転生なら穴に落ちる。

今日の俺は冴えてるぜ！

テンプレ通りに落ちてやっても良いんだが、俺にはまだやり残し

たことがあるんでな。

「やり残したことじゃと？」

「ああ、そつだ……」

コレをせずして転生など出来ようはずもない。

「良かるう、言ってみるがよい……」

ありがたい、ならば遠慮なく……。

「パンツ見せて下さい!!」

「……ホレ」

ペラツとめくられる美幼女神の腰布。

「鼻血ブーーーーッ!!」

こうして、俺は赤いアーチを描きながら穴に落ちていった。……  
頭から。

P.S.

白の木綿（アクセントに小さな赤いリボン）でした。



## プロローグ（後書き）

あらすじと冒頭読んで真面目な話だと思ったか？  
残念だったな！！

タピオカ入りドリンクを飲んで、底に残ったタピオカをストローで吸ったら喉にダイレクトアタックを受けた作者です。

これ書いた経緯ですが、投稿中のもう一作が執筆中に計八回消えたせいで萎える 気分転換に別作品書こうか オリジナルヒーロー系書くか？ やっぱリリアス系なワールドエンブリオ書こう なぜかニードレスになってた。

ニードレス0と六巻までしか持ってないのに。

で、これ書いたら消えなかったといった感じで。

この後書きは書き終えた直後に消えたけど。

呪われてるのかな……。

取り敢えず02買ってくるか。

俺的死生観……輪廻転生って仏教とかバラモン教、ひんにゅ……ゲ  
フンゲフン。ヒンドウー教とかですか。

他にもあるみたいですが宗教とかあまり詳しくないので。  
解釈の仕方も違うかと。

アメノウズメ……天照大神が天岩戸に引きこもった時に、天岩戸の  
前で踊った女神。

胸元とかはだけさせてたらしいぜ！

十五歳までの死亡率が高く、十五歳以上からの平均寿命が三十歳前  
後の時代なら少女だった可能性もあるんじゃないか？

自宅警備員諸兄の前にも現れるといいね！

俺の前にもry

テンプレ転生先

ネギま……コンビニでのマガジン立ち読み程度でしか読んでない。  
当然うる覚え&飛び飛び。

IS……読んでない。

リリなの……無印、A・Sは見た。

StSは「頭冷やそうか」と揺りかこの壁抜き　クアット口哀れのみ。

漫画やドラマCDは読んでない、聴いてない。

恋姫……主人公劉備。ポジ、蜀シナリオのみの一作目途中まで。

エロゲってエロシーンで萎えない？

ついでにディスクを知り合いに貸したら返ってこなかった。

テンプレ能力

無限の剣製、王の財宝……英霊エミヤの経験や、ギルの財宝も一緒に貰わないとぶっちゃけ使えない能力だね。

自分で聖剣とか探すの大変そうです。

幻想殺し……ニードレスの能力って攻撃範囲広くない？

物理攻撃も普通にあるし。

右手首から先のみとか軽く詰む。

範囲広げて使う予定だけど。マジチート（笑）

最後にこの作品ですが、時系列滅茶苦茶、独自解釈、独自設定ありな作品になるかと思えます。

あと不定期更新。

それでも良いぜ！　って方は今後ともよろしくです。

それではまた次回の更新で。



P.S.

主人公変態っぽいけど、主人公 作者なんだからね！ 勘違いしな  
いでよね！

## 第1話 のっけからテンプレ展開が崩れた訳だが

とある部屋の中で、数名の人影が顔を合わせていた。

そこは異様な一室であった。

装飾の類は一切無く、強化ガラスで仕切られた奥の壁際には幾つもの生体ポッドが並べられていた。

床には太さも様々なテーブルが引かれ、強化ガラスの手前のスペースには大型のコンピューターが幾つも設置されている。

高い天井に備え付けられている蛍光灯は灯っておらず、光源といえば生体ポッドを照らす様に奥の壁に埋め込まれている蛍光灯とコンピューターのディスプレイのみ。

当然、部屋の隅まで光は届かず、陰湿な空気に包まれている。そこは研究室であった。

それも、生体ポッドの中に充填されている溶液に浮かぶ脳髓や異形、人間が、秘密裏に行われている人体実験施設である事を明確に物語っている。

「コレも失敗か……」

薄暗い室内に男性の唸るような声が漏れる。

その眩きは、広い室内では響く事もなく、辺りに響く機械音によつてすぐにかき消された。

だが、周囲に居た五人には聴こえたのだろう。皆一様に苦い表情を浮かべていた。

「やはり、二つ以上の能力フリンクメントを持たせることは不可能なのでしょうか……?」

そう言った男性の前にあるディスプレイ。そこに表示されるデータから分かるのはただ一つの事実。

『能力反応無し』

「無理かどうかはまだ分からん。今までの素体は『エデンの林檎』エデンスシードの拒絶反応で崩壊したが、『087・D・J』は未だ形を保っている。可能性は捨てきれんな」

中心に居る男が発したその言葉の後、一つの生体ポッドに視線が集まる。

一同の視線の先、その生体ポッドの中には少年が一人浮かんでいた。

今までの実験体はどれも、複数の遺伝子を組み合わせても能力は発現せず、エデンの林檎の移植により身体が崩壊、死亡していたのだ。

能力こそ現れなかったものの、崩壊が無い分大きな一歩とさえ言えるだろう。

「二重能力者製造計画は確実に進んでいる。『087・D・J』に能力は見られなかったが、研究を続ければ複数の能力を持った能力者も生み出せるはずだ」

そう言った男性の眼には、確かな自信が見て取れた。

ダブルニードレス・プロジェクト  
二重能力者製造計画。

それは、キリストセカンドのクローンを生み出すことを目的としたアダム・プロジェクトの下位プロジェクトの一つとして、666人委員会の出資により立ち上げられた計画である。

本来能力とは、キリストセカンドを除き一人一つが原則となつて

いる。

この計画では、「ならば、その原則を覆すことが出来れば、より完全に近いキリストセカンドのクローンを生み出せるのではないか？」という目的の元、様々な実験が行われているのだ。

ここで得られたデータは、全てアダム・プロジェクトに回され活かされることとなる。

「上層部<sup>うへ</sup>から渡された複数の能力者の遺伝子を組み合わせさせて生み出された素体。更にエデンの林檎を移植しても崩壊は免れましたが、能力が現れないとは一体……」

「理由はまだ分からん。エデンの林檎の濃度が低かったのか、複数の能力が反発しあっているのか、今までと同じく単なる失敗か。それとも白毫<sup>びやくごう</sup>を介して覚えられるのか」

何にせよデータ不足だ、と言って会話を締める。

これから詳細なデータを取り、纏めてアダム・プロジェクトの研究チームに送らねばならない。

やることは山ほどあるのに時間は有限。また徹夜続きになるのかと、思わず溜め息が出そうだ。

「さて、作業を始めようか」

男が促すと共に、それぞれがデータの解析作業に移る。

未だ成果らしい成果は表れていないものの、今回の実験を足掛かりにアダム・プロジェクトへの参加を認められることを夢見て。

しかし、現実とは何時も残酷なものである。

「主任！」

自動ドアの開く音と共に一人の男性が駆け込んできた。それは追加のデータをアダム・プロジェクトの研究チームへと渡しに行った研究員だった。

余程急いできたのか珠のような汗をかき、息も大分荒い。にも関わらず、蒼い顔色に浮かぶ悲痛な表情が、主任と呼ばれた男に嫌な予感を抱かせる。

「……どうかしたのかね？」

嫌な予感のせいで喉が渇く。何とか出せた言葉は掠れてしまった。背筋に嫌な汗が流れる。心臓の鼓動が、周囲の機械音にも負ける事なく耳に届く。

他の研究員は何がなんだかわからぬ様子で、二人を交互に見やっている。

「あ、アダム・プロジェクトが……」

男は床に膝をつき、息を整えながら何とか言葉にしようとする。

「……成功、したそうです。『079・A・B』が、エデンの林檎の移植後に安定……。と、当プロジェクトは、現時刻を以て凍結後に正式に通達することです……」

それは今までの研究が全て無に帰す通告。

誰も何も喋れない。

……足元が崩れて行く気がした。

SIDE：主人公

目が覚めると、そこは陰気な研究室でした。

なぜか薄目しか開けられない上、身体も動かんからボンヤリとしか確認出来ないが。

って、これどういう状況？

普通、転生のテンプレっていったら嬉し恥ずかし赤ちゃんプレイで黒歴史じゃないの？

何で培養ポッドみたいなのに入れられてるのさ。

横になってないから「知らない天井だ……」とか言えないし。

テンプレ転生ならその辺もテンプレさせようよ幼女神。

何で薄暗い研究室で白衣にメガネのオッサン共を見下ろしてるんだよ。

メガネのオッサン集団とか誰得だよ。メガネっ娘連れてこいコラ。とか考えている内に、顔面蒼白な白衣メガネのオッサンが駆け込んできた。

またオッサンか！

「……アダム……、……当プロ……、凍結……」

ん？ 駆け込んできたオッサンが何か喋ってるがよく聴こえん。

ニードレスの世界でアダムって言ったなら、アークライトやブレイドを造ったアダム・プロジェクトのことだよな？

あ、元から居たオッサン達の表情筋が死んだようだ。

凍結って何だ？

何かを凍らせる……わけないよな。

オッサン達の表情から察するに、アダム・プロジェクト終了のお知らせ？

という事は、俺ってアダム・プロジェクトの実験体……？

………幼女神イイイイイッ！

何してくれちゃってんのあの娘！？ アークライトに目を付けられたくないから『ZERO』じゃなくて透視能力頼んだのに、思いっきり渦中に巻き込まれてんじゃねえか！！

『チートになるように運命を弄る』って、チートの代表格になるよ！

ハアツ、ハアツ………！ 落ち着け俺。びーくーるびーくーる。

テンパってる間に、オッサン達はゾンビのような雰囲気撒き散らしながら連れ立って出て行った。

身体も動くようになってきたし、今の内に能力の確認と逃げる算段でも立てないとな。

プロジェクトが凍結されたなら、このままだと処分されて第二の人生終了になりかねん。

転生後数分で幼女神に再会、物語終了なんてテンプレどころか斬新過ぎるわ。

えっと、頼んだ能力は『透視』だったな。透視……、透視……。

………透視じゃ逃げられねええええっ！

これは盲点だった！ 俺、培養ポッドの中。その向こうは厚いガラスと壁。

透けて見えても逃げられねえ。

……詰んだ。『USELESS』（完）。

いや、待て俺。諦めるのはまだ早い！

「諦めたらそこで一試合（人生）終了だよ」ってヒゲメガネのオツサンも言ってた！

まずは培養ポッドからの脱出を試みよう。

プランA：内側から開けてみる。

ポッド上部……隙間無し、押し上げてみても動かない。下部……同上。

プランB：ポッドのガラスを叩き割る。

肘をたたみ、やや内角を狙い、えぐり込むように……打つべし！  
打つべし！ 打つべし！

………ビクともしない。というか、踏ん張れない、肘を伸ばしきれない、水の抵抗の三つを考慮に入れてなかったわ。

チクシヨウ、透視した所が本当に無くなれば良いの………に………？

目の前のガラスがくり貫かれた様に無くなり、流れ出す溶液。

目線を下げ透視、消えるように念じる。

その部分からも溶液が流れ出す。



……………安西先生ありがとう！

諦めないで良かった。これで逃げられる！

とりあえず、抜け出せるだけの穴を開けてポッドから這い出る。

ついでに、ガラスの仕切りにも穴を空けて研究スペースへ。

そこでようやく、周囲を確認出来るだけの余裕が出てきた。

奥のスペースには俺が入っていたポッドの他にも二十個近いポツ

ドが並べられ、その半数近くに脳みそやら身体の一部が破裂した人間だったモノ達が入っている。

……………なにこのスプラッタ。

正直言ってグロイです。

もしかしたら俺もあの残骸の仲間入りしていたかもと思うと、正直ゾツとする。

透視で建物内を確認すると、近くに人は居ないようだ。

逃げる前に少しでも情報収集をしようと、研究スペースの大型コンピュータに向き直り、キーボードを叩く。

……………ふむ、どうやら俺が受けていた実験はアダム・プロジェクトでは無いようだな。

ダブルニードレス・プロジェクト、か。

本来一人につき一つしか無いはずの能力を、二つ以上持たせることを目的とした研究ねえ……………。

あくまで中心はアダム・プロジェクトで、この研究は下位プロジェクト……………って事は、多角的な実験によるデータ取りが目的ってことかね。

実験内容も、一般人にエデンの林檎を移植したり、能力者の脳を移植したりとまあ、良くやるねえ。

人権団体様もよく騒がないもんだ。

いや、お上<sup>かみ</sup>が隠せば知りようもないか。  
嗅ぎ付けても拉致<sup>モルモット</sup>られて実験体、と。えげつねえな……。

……お？ 最新の実験体は『087・D・J』か。これが俺かな？

確かブレイドが079番だったから、こっちの方が実験数が多いのか。

まあ、データ取りが目的なら納得だが。

ふうん……、複数の能力者の遺伝子を組み合わせで一から造った身体ね。いわゆる試験管ベビーってヤツかな？

通りで授乳やらオムツ替えなんかの黒歴史プレイが無い訳だ。

ガキの身体になってる理由は分かったが、マイサンが縮んでるのが一番堪えたぜ……。

元になった遺伝子は……と、『透視』、『透明化』、『物質干渉』、『空間干渉』 e t c . e t c . ……節操ねえなあ。

透明化って右天とかいうガキのアレか？

というか『不明』って何だよ、『不明』って。ちゃんと確認してから組み込めよな。

失敗したらどうする積もりだったんだ。

粗方調べたし、そろそろ逃げるか。

バレない内に離れたいしな。

……その前に服だな。

培養ポッドに入れられてたから真っ裸なんだよ。

オッサン連中に視姦され……考えないようにしよう、うん。精神衛生上よろしくない。

更衣室とか無いのか？

と、少し先にロッカールームっぽいのを発見。

透視能力マジ便利。

そつと分かれればさっさと行くぜ。

壁ぶち抜いて更衣室へ。

おっと全身鏡……が……ってグロッ!? 腕やら足やら頭に縫い跡付いてるし。フランケンシュタインを連想させられるな。フード付きコートとかが無いと目立ち過ぎるぞ、コレは。

とりあえず、気を取り直して着替えの搜索をするか。

ついでに金目の物も頂いていこう。

判ったことだが、大人物しか無いんだよな。ダボダボだ。

こんな時に変身トッヘルケンガーがあれば、こつ……パパッと作り直せるの……に

……。

……サイズとデザインの変わった服になった。

……何と……ご都合主義。物質の透過、消失に変身とか、チート過ぎるだろ。

他にもあるのか? 要検証だな。

……ま、まあいい。コートを作ってさっさと逃げよう。

## 第1話 のっけからテンプレ展開が崩れた訳だが（後書き）

ニヨロロさんとのメッセージのやり取りで、セトの重力作成グラビトンの強さが微妙という話に。

と、いうわけでセトの大技考えてみた。

- 1・敵の周りに超重力場を作り出す。
- 2・マイクロブラックホールに発展させる。
- 3・敵（と味方）を吸い込む。
- 4・ホーキング放射で残った敵（と味方）が焼死？

……このアイデアは封印しよう。

フェルゼンアヴァランチ……ザカート隊長の出番あるかな？  
今のところ不明。

ブレイドとアークライトが生み出されてから、つまり今回の話から原作開始まで、恐らく二十年近くあるんですね。  
キンクリ混ぜながら書いていこうと思います。

オリジナル能力案も募集してみたり。

某学園都市第三位のビリビリっぱい能力は考えてますが。

ではまた次回の更新で。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3441z/>

---

USELESS

2011年12月16日01時53分発行